



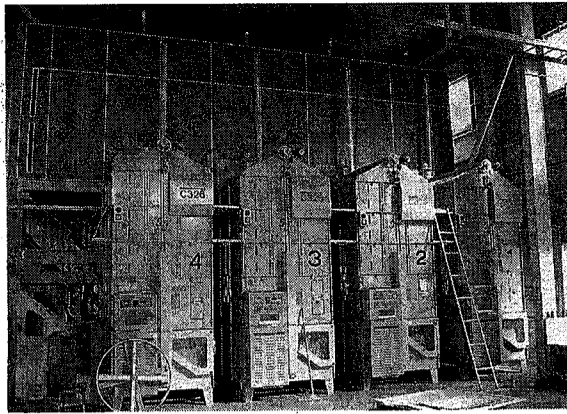
「お金よりも知恵を使う」

# 創意工夫の2段乾燥

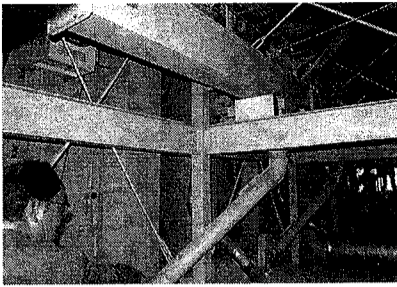
## 福井／朝日農友農場

朝日農友農場（福井県丹生郡越前町）の収穫後管理で、粉の2段乾燥を可能にしているのは、農場主の清水豊之さん自身が基本設計した独自の乾燥ラインだ。1次乾燥を終えてタンクに送られた粉が、2次乾燥のために乾燥機へと戻れる構造になっている。巨大サイロや貯留タンクのある大規模施設なら構造的には可能だが、一般的な乾燥施設では不可能な流れだ。

乾燥施設は40俵張りの火力乾燥機が4台と、50俵張りの貯留タンクが4台、仕上げタンク1台といふ構成。2次乾燥で粉をもう一度乾燥機に落とせるよう、貯留タンクを乾燥機の後方上部に配置した。張り込んだ生粉は、フロコンベヤーや配管を経て乾燥機に投入。▽乾燥機1番で1次乾燥した粉は貯留タンク2番の4番の乾燥機に戻される。独自の乾燥ライン



半乾粉を乾燥機に戻せる独自設計の乾燥ライン



農機メーカーも舌を巻く配管（乾燥機裏）

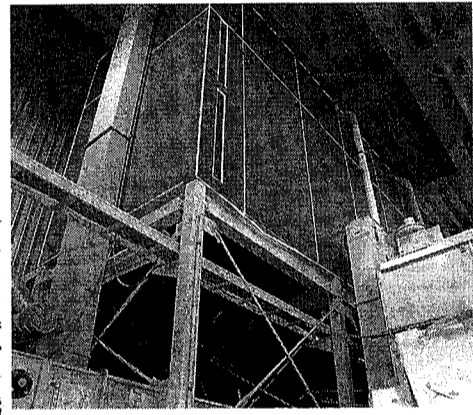
かへ▽乾燥機2番からはタンク3番の4番へ▽乾燥機3番からはタンク4番へと流れる。乾燥機4番は主に乾燥受託用（通常乾燥）に使う。例えば乾燥機1で水分18%まで1次乾燥し、半乾粉をタンク2に上げて

◀中▶

24時間以上貯留。水分を均質化したあと、タンク3に落とし2次乾燥し、仕上げタンク5を経て粉溜り工程に入る。生粉の投入から2次乾燥終了まで約3日かけて行

### 貯留 鉄骨×コンパネ仕様

もうひとつの特筆すべき点は、乾燥機本体以外では完成品を極力使わず「お金よりも知恵を使う」ことで設備投資コストを大幅に抑えたことだ。タンクは農舎の建屋を施工した建築業者に依頼し、鉄骨とコンパネで仕上げた木製仕様。内部に間仕切りをして、タンク5台分の空間に分けておく。木製のため調湿効果もあるほか、設置から



乾燥機の後方上部に配置した木製タンク

度を厳守する。独自の配管や仕組の妙は、大やがて動くんですかと手農機メーカーの担当者一舌を巻くほどだという。

20年以上を経たいまも現役で稼働しており、耐久性も折り紙付きだ。タンク関係でメーカーから購入した部品は、粉を排出する下部のゴトクだけ。タンクの開閉は電動でもエアでもなく手動で行う。開閉シャッターに「5kg100円」で買えるヒモを取り付け、乾燥機とタンクの空気をみ出す本格的な2段乾燥ができる。台風の前などは水分18%まで落として

タンクに上げ、また溜りに行ける。タンクでタンクを作ることで、乾燥機4台でも実質7台分使える乾燥ラインでもある。農舎では、スペースごと電力使用にロックをかけて電気基本料金を安くする「インターロック」も採用。秋の約1カ月しか使わない乾燥施設と、秋以降に稼働する低温倉庫・精米設備等の電力使用をインターロックで切り替えることで、農舎の基本料金を半分以下に抑えている。（つづ）

# 「中国一豊かな村」で稲作指導

## メイドインジャパンを切り札に 3年でコメ作り改革

### 華西村モデルの確立へ

朝日農友農場（福井県丹波越前町）の農場主清水豊之さんは2016年から「中国一豊かな村」として知られる江蘇省の華西村で稲作の技術指導に当たっている。村営企業を束ねる「江蘇華西集団」との年次契約を交わし、傘下のコメ会社「華西米業有限公司」の20歳から30歳の若者たちにコメ作りを教えている。村長からの直々の要請に加え、日本の稲作技術によって村のコメ作りを改革し、質の高いコメ作りを根づかせ、華西村農業を復活させる手助けをしている。

### 福井／朝日農友農場

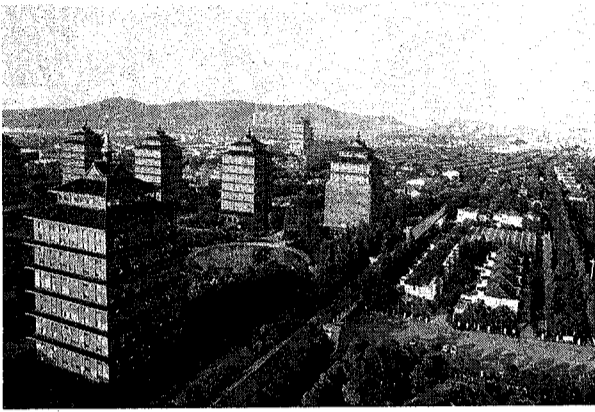
（下）

華西村は銀行・証券・紡績・繊維、鉄鋼、玉石、貴金属、観光、レジャー事業など約70社の村営企業を有し、統括する江蘇華西集団の年間売り上げは約8600億円。村民には住宅や自家用車を支給し、平均所得は1500万円に上るといわれる「中国一豊かな村」と呼ばれる。

清水さんが華西村の農業技術指導に当たったきっかけとなったのは、日本米の輸入販売に関する案件だった。華西米業が日本から夢ごこちを輸入し、日本ブランド「華西村ブランド」で中国全土の富裕層に販売するプロジェクトを計画。村長の呉協恩氏自ら副村長や通訳を伴って日本の夢ごこち栽培農家を訪ね歩き、その中で出会った1人が福井の清水さんだった。

華西米業は輸入米販社

朝日農友農場（福井県丹波越前町）の農場主清水豊之さんは2016年から「中国一豊かな村」として知られる江蘇省の華西村で稲作の技術指導に当たっている。村営企業を束ねる「江蘇華西集団」との年次契約を交わし、傘下のコメ会社「華西米業有限公司」の20歳から30歳の若者たちにコメ作りを教えている。村長からの直々の要請に加え、日本の稲作技術によって村のコメ作りを改革し、質の高いコメ作りを根づかせ、華西村農業を復活させる手助けをしている。



中国全土から多くの観光客や視察団が訪れる華西村

呉村長は清水さんと接する中で、妥協を許さず信念を持って最高品質のコメ作りを取り組む姿勢や、卓越した技術力、指導力、誠実な人柄に惚れ込み、当初のプロジェクトを大きく飛び越えて、華西村のコメ作りを根本から建て直すための本格的な稲作技術指導を要請。2016年10月には江蘇華西集団と清水さんとの間で「良質米生産指導契約」を締結し、福井の地と華西村を互いに引き寄せるための、3年越しの良質米生産指導が同年4月スタートした。

清水さんの指導を受ける華西米業のスタッフは20歳から30歳の若者。いずれも村の将来を担う幹部候補生だ。農業経験者は1人もいないが、



華西村での現地会議の様相

### 原点に回帰し農業復権

華西村は、もともとは貧しい農村だった。前村長の呉仁宝氏（現村長の父、2013年に逝去）は、資本主義が厳しく糾弾された文化大革命期、先見の明をもって村の産業振興の策地をつくり、1978年の改革・開放後、鉄鋼業など製造業を中心にいち早く工業化に成功。村を繁栄に導いた

村が本腰を入れて取り組むコメ会社の将来に魅力を感じ、スタッフ募集には300人以上の若者が手を挙げた。清水さんは面接官も務めている。

初年度の16年には清水さんが何度も村を訪れ、クリアすべき課題をひとつずつ掘り起こしていった。また華西米業の若者7人が稲作期間の4〜10月にかけて清水さんの農



華西米業の若者らに指導する清水豊之さん（越前町）

場を4回訪問。種の準備やハウスでの苗箱の並べ方から、田植えなど農機の使い方、施肥作業、収穫・乾燥、精米まで日本式稲作技術の基礎を学んだ。清水さんが手がけるネット販売の注文・決済などの実務にも触れたほか、仲間の生産者の協力で畜産やシイタケ栽培も視察している。

「最初の1年間で、たいの課題はみえてきた」と清水さん。2年目となる17年度は、ほぼ隔月の割合で清水さんが現地へ飛び、本格的な実地指導を行う。施肥設計・肥培管理を検討し、秋まきには高品質米出荷に不可欠な乾燥機・初搾機・精米機も機械設備も話を詰めていく。

華西村の稲作面積は70万ヘクタールで、周辺では中国の中粒種が多く栽培されている。現地で作られている中国品種（現在は「武運種23号」で試験段階）を日本の技術で栽培し、契約期間の最終年となる18年秋の収穫米が日本の食味計で80点をクリアすることが当面の目標だ。



呉協恩村長（中央）も清水さんの農場を訪れた（昨年10月）

### コメで農村を豊かに

#### 「三農問題」解決の糸口にも

華西村に掲げる今回の稲作振興策の成否は、中国最大の内政上の課題ともいわれる「三農問題」との関係でも、中央政府や全土の農村から注目されている。

影で、生産性の低い農業、疲弊した農村、貧しい農民という「三農」の現状は厳しさを増し、都市部を中心とする急激な経済発展の中にも格差の問題は依然としてある。右肩上がりの時代が続くわけでもない。自分たちばかりではない。農民なんだ。農業を忘れたところでお金儲けをしても落ち着かない。農村のアイデンティティーを取り戻すべきだ」とい

精米機のご用命は…

**株式会社 杉田工作所**

TEL 03(3892)9870(代)

FAX 03(3892)9868

「私が教える技術は私個人のものではない。日本の中において、国の研究機関や普及指導機関、農協・生産者といった多くの先進たちが長い年月の中で磨き上げてきた技術が土台にある。私はそれを教えてもらって、多少のオリジナリティを加えているだけ」と謙遜に話す清水さん。

そして「メイドインジャパン」の優れた技術を導入し、農業・農村を良くしようと奮闘する国や村がある。日本のコメ作り技術は世界が関心を寄せ、世界に誇れる技術である。そのことを日本に稲作農家にもっと知ってほしい。将来に向けて自信を持つことが、

「私」が話している。おせひ